

## 祝福をうける行動

### 祝福とのろい

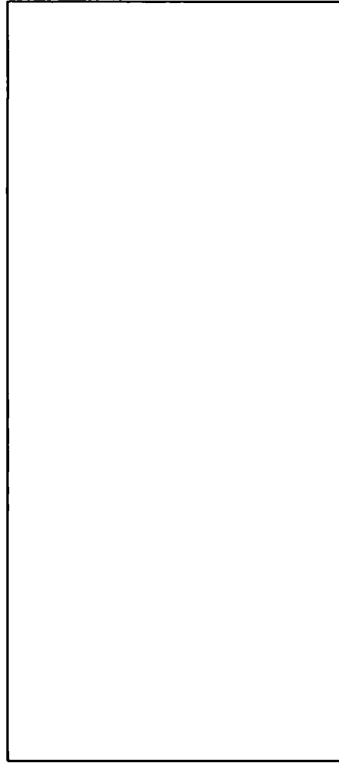
「祝福とのろい」ということは、聖書の中心的な思想になっています。モーセ五書においては律法の条文の最後に出てきます。このことばによって、民に対して律法に従うようにといましめています。このことばは、律法を守れない者は神から見捨てられ、律法を守る者のみが聖なる者となると主張する律法主義の根拠とされています。

しかし、レビ記26:40-45では、たとえ罰を受けることがあっても、神が契約を破ることはないと言われています。申命記28:62でも、完全には滅ぼさず、残りの者がいると言われています。

今日のたとえの中心は、最後のさばきにあるのではなく、イエスに従う者はいかに行動すべきかという点にあります。祝福とのろいのことばは、未来についてのさばきのことばではなく、今どう生きるべきかという勧めのことばなのです。とうてい律法を守れないと思っている人でも、思いがけないうちに神のこ

とばを実行していることがあると教えているのです。

自分は何んなことができそうか書いて下さい。



神が決して契約を破らないと言われる時、又、必ず残りの者がいると言われる時、そこに福音があります。自分ではイエスに従った生活をしていないと思っ  
つていても、神から認められるのです。しかし、自分

ではイエスに従った生活をしていると思っ  
つていても、

神が認めないこともあるのです。

私たちの生き方が問われているのです。今日のた

とえで示されていることは、知らないでした行動に対

して、神の評価がなされるということなのです。

